



い き い き

小 富 士 っ 子



R 6 学校便り No12

令和 6. 1 0. 3

四国中央市立  
小富士小学校

## 実りの秋と秋祭り



最近、太鼓を練習する音が聞こえてきており、秋祭りが近付いてきたことを実感します。10月13日から始まる「土居秋祭り」を大いに楽しみたいものですね。しかし、**祭りだからといって「お祭り騒ぎ」することなく、節度を守り、安全で楽しいお祭り**にしましょう。そもそも秋祭りは、秋の収穫感謝祭であり、「田の神様」を米が収穫できたお礼として「もてなす」ことから始まっているものです。楽器を演奏し、歌を歌い、舞を踊っているのも「田の神様」のためなので、お祭りには**感謝の気持ち**を持って参加しなければなりません。太鼓台にしても神様の乗り物であり、神様を喜ばせるための道具でもあり、その飾りなど各部分には、それぞれ深い意味があります。したがって、豪華絢爛さを競い合ったり、私たちの余興の道具として使ったりするのは、太鼓台の本来の目的ではありませんから、祭りの本質を意識した参加の仕方をするのも良いのではないかと思います。

日本人は古来より農耕を営み、日本では特に稲作を中心に一年の生活が組み立てられていて、節目の行事や秋祭りも稲作文化から切り離すことはできません。かつては、経済力も米の収穫量によって決まっていました。つまり、お米が多く収穫できる場所が豊かで栄えていました。農耕が始まった頃は「田の神様」のことを「さ」と呼んでいました。田植えが終わった頃に、「田の神様」が稲の成長を見守るために山から里へ下りてきます。5月は『さ』が山から下りてくる月なので、5月の和風月名は「さつき」と言います。そして、米の収穫を迎えると「田の神様」の仕事も終わり、豊作を見届けて安心して山へ帰ります。「『さ』がかえる」ので「さかえる」と、これが「栄える」という言葉の由来となった「お話」だそうです。（あくまでも一説です。）さて、山へ帰った「田の神様」も10月には、出雲（島根県）へお出かけです。全国各地の神様が出雲大社に集まり「神事」について話し合うのだそうです。そういうわけで、10月には各地の神様が留守になり、神様が不在の月であるということで、10月の和風月名は「神無月（かなづき）」と、言います。もちろん、神様がいっぱい出雲地方では、「神在月（かみありづき）」と呼んでいます。神様の存在を感じながら、**自然の恵みや万物への感謝の気持ち**を忘れないようにしようとしている古来日本人の心は美しいと思います。そのような心で継承してきた日本の伝統文化もすてきです。この10月に、私は日本の伝統文化について深く考える月にしてみたいと思います。また、私は自分が生かされているのだと謙虚に学び、自然の恵みや万物、そして、周りの人々への感謝の気持ちを常に持っていたいと思います。